



上 越 医 師 会

上越医師会

理事 川 崎 浩 一



上越医師会は、上越市と妙高市の二市で構成され、2025年11月現在、会員数は265名（開業医106名、勤務医135名、研修医24名）であり、医療機関数は診療所112、病院12施設となっています。医師会では上越地域総合健康管理センターの運営により、人間ドック、事業所健診、がん検診などを通じて、予防医学および地域保健にも積極的に関わっています。昨今、会員の高齢化に伴い、診療所の閉院がここ2年間で5か所みられる一方、地域で開業していた会員のご子息が上越地域に戻り、開業・入会する例も複数出てきており、医師会に新たな活力が生まれつつあります。

北陸新幹線 上越妙高駅開業から十年、さらには敦賀延伸から一年が経過し、上越妙高駅の利用者は増加傾向にあります。特に外国人観光客の姿が目立ち、大きなスーツケースを引きながら、赤倉温泉や妙高杉ノ原などのリゾート地へ向かう様子が日常的な風景となっています。地域の国際的認知度が高まる中で、医療や健診の需要も新たな局面を迎えていきます。

妙高杉ノ原では、シンガポール資本の Patience Capital Group により、国際リゾート開発プロジェクトが進行中です。第一フェーズとして、2026年開業予定の高級ホテル「シックスセンシズ妙高（Six Senses Myoko）」は、57室の客室と21戸の

レジデンスを備え、隈研吾氏の設計による「Golden Wind」をコンセプトとする自然調和型施設となる計画です。このプロジェクトには、長期滞在型の外国人居住者や雇用労働者の流入が見込まれ、今後、健診、健康管理、救急対応など医療面での備えが必要になると考えられます。

こうした状況を踏まえ、健康管理センターでは従来の巡回型健診から、受診者にセンターへ来てもらう方式に方針転換し、健診業務は増加傾向にあります。しかし、現在の施設のみでは将来的に対応が困難になることが想定されるため、新たに市内に健診センターを2026年冬に開設する計画を進めています。また、妙高健診室についても老朽化と狭隘化が課題であり、現在妙高市が進めている「道の駅あらいリニューアル事業」に併設する形での移転構想が計画中であります。妙高地区は今後、観光・産業・国際化が進展する地域であり、健診センターの役割はさらに重要になると考えられます。

上越医師会は、地域在宅医療の連携基盤として、上越地域在宅医療推進センターを運営かつ行政と連携することにより、変化する社会と地域のニーズに対応し、持続可能な医療体制の確立に今後も努めてまいります。